

## 「村山地域の産科医療を考える会」

日時 平成20年3月27日(木) 14:30～

場所 山形大学医学部 管理棟 2階第一会議室

### 次 第

#### 1 開 会

#### 2 協 議

(1) 県立河北病院における産科医療の現状について

(2) 北・西村山地域における産科医療の確保について

(3) その他

#### 3 閉 会

「村山地域の産科医療を考える会」出席者名簿

所 属	役 職	氏 名	摘 要
山形大学医学部	医学部長	嘉山 孝正	
山形大学医学部附属病院	病院長	山下 英俊	
山形大学医学部女性医学分野	教 授	倉智 博久	
済生会山形済生病院	副院長	金杉 浩	
山形県立中央病院	院 長	小田 隆晴	
山形市立病院済生館	館 長	平川 秀紀	
東北中央病院	病院長	田中 靖久	
	産婦人科部長	金子 尚仁	
天童市立天童病院	院 長	松本 修	
北村山公立病院	院 長	木内 博之	
	副院長	大塚 茂	
山形県立河北病院	院 長	片桐 忠	
	事務局長	三澤 俊昭	
	部 長	小宮 雄一	
山形県健康福祉部	次 長	阿彦 忠之	
山形県病院事業局	病院事業管理者	野村 一芳	

《事務局》

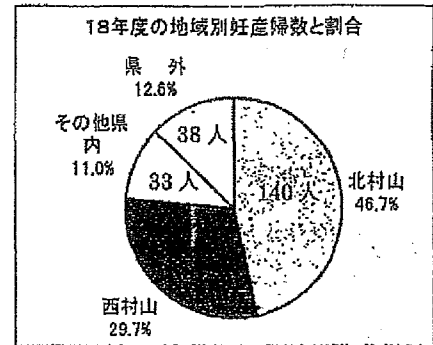
山形県健康福祉部健康福祉企画課 児童家庭課	課 長	仁科 義英	
	課長補佐	橋本 仁	
	子育て支援主幹	奥山 隆一	
山形県病院事業局県立病院課	課 長	松田 一彦	
	課長補佐	船田 孝夫	
	企画主査	倉金 誠	

## 山形県立河北病院の産婦人科の現状と地域における役割

### 1 地域別妊産婦数

河北病院の平成18年度の分娩件数は、地域住民や里帰り分娩などにより合計300件となっています。

住所別の妊産婦数では、北村山地域が46.7%、西村山地域が29.7%などとなっています。



### 2 西・北村山地域の分娩施設と河北病院の役割について

西・北村山地域の分娩施設は、当院を含めた5施設で、当院以外の施設では産科の医師は1名のみであるため、この地域の分娩に果たす当院の役割は大きいと言えます。

分娩施設名	河北病院	北村山公立病院	西川産婦人科 小児科医院	国井クリニック	菅クリニック
20年1月の 医師数	3名	1名	1名	1名	1名

### 3 河北病院産婦人科の医師数

年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度
人数	5人	5人	5人	4人	3人

### 4 分娩件数

(単位：件)

年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度
分娩件数	383	364	373	318	300

### 5 産婦人科の患者数

(単位：人)

年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度
入院延患者数	12,819	13,017	12,115	10,269	8,247
外来延患者数	29,813	30,392	27,331	25,521	23,967

6 不妊治療実績

(単位：件)

年 度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度
体外受精	41	47	48	50	47
顕微鏡受精	6	9	11	14	12

7 産婦人科の手術件数

(単位：件)

年 度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度
手術件数	486	460	383	325	271

河北病院の平成18年度市町村別妊婦数および分娩件数等

(単位:件)

市町村	妊婦(分娩件)数 A	Aの内深夜分娩件数	Aの内休日分娩件数	Aの内帝王切開件数	備考
山形市	10	4	3	1	
天童市	14	3	3	4	
山辺町	1			1	
寒河江市	32	10	3	4	
河北町	47	12	7	13	
西川町	2				
朝日町	5		1	2	
大江町	3	3	3	1	
北村山	44	11	5	11	
東根市	57	15	7	10	
尾花沢市	30	6	7	8	
大石田町	9	5	2	1	
新庄市	2	1		2	
金山町	1	1			
最上町	1		1		
酒田	1	1			
米沢市	1				
南陽市	1	1			
飯豊町	1				
県外	*38	9	4	12	*38件には双子1件含む
計	300	82 27.3%	46 15.3%	70 23.3%	300件に占める割合

河北病院の月別分娩件数

(単位:件)

	18年度	19年度
4月	26	27
5月	20	17
6月	19	20
7月	21	30
8月	28	24
9月	30	25
10月	22	19
11月	34	11
12月	28	13
1月	22	26
2月	20	17
3月	30	
合計	300	(229)

\*北村山公立病院の18年度の分娩件数は73件

平成18年度の河北病院からの救急搬送件数

(単位:件)

	母体	新生児	計
県立中央病院	0	0	0
山大附属病院	0	2	2

平成17年(上段:黒)、18年(中段:青)、19年(下段:赤)

	分娩件数	総手術件数	産婦人科 医師数	備考
[北村山地区]	北村山公立	111	33	
		72	31	
		78	26	
	H.20/1~2	14	3	
河北		345	345	3
		309	232	
		259	187	
	H.20/1~2	43	35	
天童		39	20	1
		45	28	
		43	16	
	H.20/1~2	7	5	

	分娩件数	総手術件数	産婦人科 医師数	備考	
[最上地区]	新庄	227	130	2	
		282	139		
		482	151		
[村山地区]	山形済生	966	502	6	
		891	437		
		872	375		
	県中		507	271	4
			522	268	
			537	314	
	済生館		361	182	3
			389	201	
			387	207	
	東北中央		141	69	2
			117	72	
			91	86	
[庄内地区]	日本海	452	186	3	
		407	188		
		372	201		
[置賜地区]	置賜	475	147	4	
		553	175		
		502	199		
	米沢		561	305	3
			636	303	
			553	286	
	小国		58	20	1
			62	16	
			50	14	

## 第2回「村山地域の産科医療を考える会」

日時 平成20年4月4日（金）17：00～

場所 山形大学医学部 管理棟2階第一会議室

### 次 第

1 開 会

2 協 議

(1) 北・西村山地域における産科医療の確保について

(2) その他

3 閉 会

第2回「村山地域の産科医療を考える会」出席者名簿

所 属	役 職	氏 名	摘 要
山形大学医学部	医学部長	嘉山 孝正	
山形大学医学部附属病院	病院長	山下 英俊	
山形大学医学部女性医学分野	教 授	倉智 博久	
済生会山形済生病院	副院長	金杉 浩	
山形県立中央病院	院 長	小田 隆晴	
天童市民病院	院 長	松本 修	
北村山公立病院	(欠 席)		
山形県立河北病院	院 長	片桐 忠	
山形県病院事業局	病院事業管理者	野村 一芳	

- 日時 4月4日(金) 17:00～
- 場所 山形大学医学部管理棟2階第一会議室



# 山形県の地区別の出生数と分娩施設

出生数は、平成17年保健福祉統計年報（平成19年3月発行）による。  
山形県の出生総数は 9,357 です。

## ④ 庄内地区

出生数 2,224

### ■二次医療機関

- 1) 県立日本海病院 407 (産科医4; 小児科医4)
- 2) 鶴岡市立荘内病院 222 (産科医3; 小児科医7)

### ■一次医療機関 9 施設

## ② 置賜地区

出生数 1,783

### ■二次医療機関

- 1) 米沢市立病院 636 (産科医3; 小児科医4)
- 2) 公立置賜総合病院 553 (産科医4; 小児科医3)

### ■一次医療機関 5 施設

## ③ 最上地区

出生数 658

### ■二次医療機関

- 1) 県立新庄病院 282 (産科医2; 小児科医2)

### ■一次医療機関 2 施設

## ① 村山地区

出生数 4,692

### ■三次医療機関

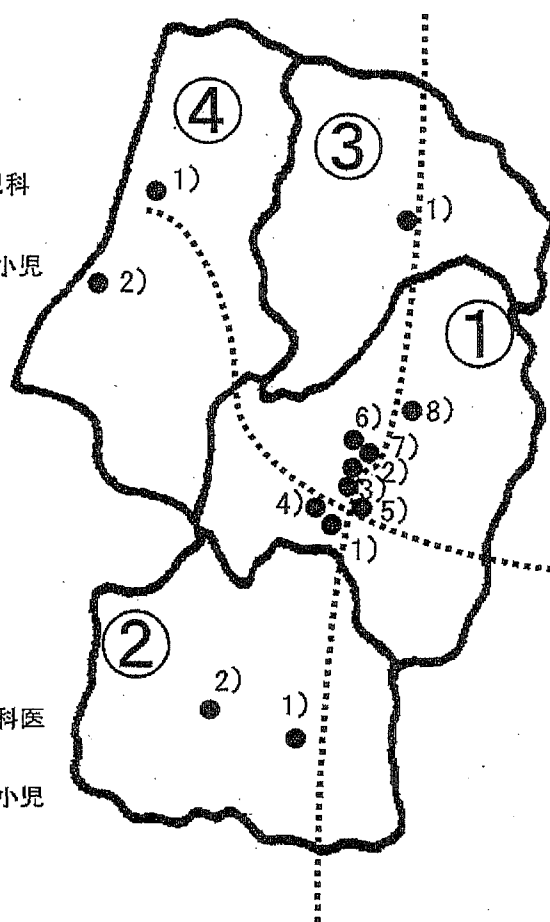
- 1) 山形大学医学部附属病院 134 (産科医16; 小児科医18)
- 2) 県立中央病院 522 (産科医4; 小児科医8)
- 3) 済生会山形済生病院 891 (産科医6; 小児科医4)

### ■二次医療機関

- 4) 山形市立病院済生館 389 (産科医3; 小児科医5)
- 5) 東北中央病院 117 (産科医2; 小児科医0)
- 6) 県立河北病院 309 (産科医3; 小児科医3)

### ■一次医療機関 12 施設

- 7) 天童市立病院 45 (産科医1; 小児科医1)
- 8) 北村山公立病院 72 (産科医1; 小児科医1)



この3回の議論で、県中の周産母子センター設置には無理があり、  
当面 山形大、済生病院、県立中央の3施設で、それぞれの分野<sup>\*</sup>で  
周産期3次医療を担っていこうという結論であった。

※ 例えば、山形大学ではNICU（NICU＝新生児ICU）は無いが、母胎合併症あるいは重症な母胎の状況に対応する。済生病院には現在NICUは最も多い

ところが、その後県の方では全く山形県周産期・小児医療懇談会での議論のないまま厚生労働省からの強い求めがあったので、県の周産母子センターを県立中央病院に設置するという方向性を打ち出し、設備を増設している。しかしこの場合最大のネックは産科医師数が全く不足するという点である。